

JELA NEWS

ジェラニュース 第63号

2024年4月15日 発行

発行責任者 渡辺 薫

公益財団法人JELA 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 TEL.03-3447-1521 FAX.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp

難民支援事業 / 世界の子ども支援事業 / 奉仕者育成事業 / 緊急災害支援事業

私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕えます

お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。(マタイによる福音書25章35～36、40節)



JELA、公益法人として始動！

CONTENTS

奉仕者育成

キャロル・サック宣教師ら「リラ・プレカリアのワークショップ」を開催 (P4-5) / ディアコニア奨学金 2025年度募集は6月から (P2) / 5年ぶりに「JELA インド・ワークキャンプ」を開催 (P3) / 学校教育助成 募集開始のご案内 (P6-7)

難民支援

奨学生が一同に会する「難民奨学生のつどい2024」を開催 (P6) / 難民奨学金RVEP・フィロクセニア奨学金募集開始のご案内 (P6)

世界の子ども支援

カンボジア支援のために570台のソーラーランタン寄贈していただきました (P7) / クリスマス・チャリティコンサートの報告 (P7)

その他の記事

公益財団法人として歩みだしたJELA (P2) / 寄付者一覧 (P8) / 編集後記 (P8)

公益財団法人として歩みだしたJELA

公益財団法人JELA 理事長 古屋 四朗

JELAは、国の公益認定等委員会から公益法人の認定を受け、2024年4月1日から「公益財団法人JELA」と称することになりました。

JELAは、もともとは1909年に設立された米国ルーテル教会の宣教師団の社団法人でした。戦前はここから多くの教会や学校や施設を生み出しましたが、戦後はそれらをすべて分離して、宣教師の活動支援だけが業務になりました。それが、公益事業の団体へと決断したのは1990年代です。難民に住まいを提供する「JELAハウス」や、若者に海外ボランティアを体験させるワークキャンプなど、次々に公益事業を立ち上げました。2009年には、「私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人々に仕えます。」というミッションステートメントを策定して、団体の進む方向を明確にしました。

そのころ国の公益法人改革により、全国の社団法人・財団法人は、いったん中間状態に置かれた上で、改めて公益法人か一般法人かを選択することを求められました。それまではすべて税制優遇のある公益法人扱いだったのですが、これからは公益法人には厳しい条件が課される一方、一般法人は税制優遇もない代わりに自由に活動することができます。JELAはもちろん公益法人を選びたかったのですが、当時はまだ公益事業とは言えない宣教師支援業務の比重が高く、一般社団法人を選択しました。宣教師支援事業を教会に移管した2019年から、いよいよ公益法人への移行に取り組みました。その後、社団法人から財団法人に転換した上で、ようやくこのほど公益財団法人として歩み出すことになったのです。



公益法人は、公益目的事業を行い、その活動が社会全体に開かれている法人です。

公益法人は、支出の5割以上が公益目的事業に支出されていることが必要です。「社会全体に開かれている」とは、団体の運営や活動が特定のグループや団体に影響されず、公益目的事業の受益が誰に対しても開かれているということです。

JELAのミッションステートメントは、この公益法人のふたつの条件を良く示しています。「キリストの愛をもって」とは、人を一切偏り見ないイエス・キリストの姿勢を模範とするということで、それは「社会に開かれている」ということです。「日本と世界の助けを必要とする人々に仕える」とは、JELAの公益目的事業は、社会の弱い人々に向けられているということです。

JELAが公益法人をめざした目的は4点あります。

第一は、公的機関による厳しい審査を経て認定を受けることで、公益団体としての社会的信用が強まります。これは、新たなパートナーとの関係構築において大きな力になるでしょう。

第二は、JELAの活動に関わる私たち自身が、公的な認定を受けた法人の関係者として自分たちの活動を律することにつながります。これは、教会を母体とするJELAを、より広く社会に押し出す力になるでしょう。

第三は、JELAの活動に賛同して寄付金で支えてくださる方々に、各種の税制特典があることです。これは、寄付者の皆様に大きなメリットです。たとえば、月額1千円で支援して下さるJELAサポーターは、確定申告すると4千円が還付されます。

第四は、JELAがその活動のために行う事業の収益に税制特典が与えられることです。節税できた分で、さらに活動を拡大できます。

公益法人になったことで、JELAには、今まで以上に大きな責任が生じました。JELAがこの責任に応えるべく現在の各事業を発展継続させるには、人材と資金と支援者が必要です。特に、JELAの活動に関心を持ち、継続的な寄付で支えてくださる支援者の存在が何よりも大切です。これを読んでくださる方には、ぜひ「JELAサポーター」になっていただきたいのです。年額1千円から月額1万円まで、ご自分で自由に決めてお支えください。JELAからも、サポーターの皆様さまにさまざまな情報をご提供して参ります。



「インド・ワークキャンプ」を5年ぶりに開催！ 大学生12名が義足作りのボランティア



実に5年ぶりとなる「JELAインド・ワークキャンプ」を2024年2月12日から11日間の日程で開催しました。同キャンプは、JELAが2005年から主催する海外派遣型ワークキャンプで、18歳以上の方を対象にインドはマハーラーシュトラ州のジャムケッドにある医療福祉施設「Comprehensive Rural Health Project (=CRHP)」に滞在し、義足作りのボランティアワークや聖書の御言葉からキャンプの経験を振り返るディボーションなどを通して、参加者の心身の成長を図るプログラムです。今回は、全国各地から19～22歳までの大学生12名が参加し、

日中は35度を超える暑さであったにも関わらず、病気やケガなくキャンプを終えることができました。

インドは日本と比べて病院で医療を受ける機会が少なく、交通事故や病気です足を失う方が非常に多くいます。他方で、義足は高価で特に貧困地域では入手や交換が大変難しいのが現状です。今回のキャンプで、参加者たちは計52本の義足を制作し贈呈しました。義足利用者の予想外の多さや、贈呈された義足に心から喜ぶ方々の姿が印象的でした。参加者たちは義足作りのボランティアに加えて、施設内に併設されたプレスクール（小学校入学前の児童教育施設）の壁の塗り替え作業や児童との交流、また施設内の食料として野菜や果物を栽培する菜園の草抜きや苗植えなどのワークにも汗を流しました。

また、ワークの合間には現地の生活やCRHPの活動を学ぶスタディーツアーも行われ、CRHPで働く社会福祉士が働く近隣の村を訪問したツアーでは、村での生活や健康指導の見学、学校訪問を行い、日本と異なる文化・慣習や、健康を軸にしたコミュニティ作りについて学びました。

その日の経験や感じたことを聖書の御言葉を通して振り返り、分かち合う「ディボーション」も毎日行われ、チャプレンとして同行した日本福音ルーテル合志・水俣教会の多田哲牧師のリードで、参加者の目を地上から神へと転じる時間を持ちました。教会や聖書に馴染みのない参加者も、普段から隣で支え導いて下さる神様とその恵みを知る良い機会となったようです。

JELAニュースブログでは参加者全員の感想レポートを掲載しています。ぜひご覧ください！



義足の作業を行うキャンプ参加者(右)



「ディボーション」の様子



義足を受け取った男性と話すキャンプ参加者



一緒に食事をとるキャンプ参加者たち

ディアコニア奨学金 2025年度奨学生募集は今年6月から

「JELAディアコニア奨学金」は、キリスト者としての成長や、社会福祉・国際協力分野での奉仕者を志す方々のための給付型奨学金（返済不要）です。毎年数名の新規奨学生を募集しています。

【給付金額】年間最大120万円（または外貨相当額）
※原則として学費として学校に直接送金
【給付期間】最長4年間 ※原則として修業年限に準ずる
【応募期間】2024年6月3日（月）～10月31日（木）必着
制度の詳細はJELAのウェブサイトをご覧ください→



JELAニュースブログ
「ワークキャンプ」関連記事は
こちらから



リラ・プレカリア修了生、6年ぶりに集う



JELAは、2006年から2018年の12年間にわたって、アメリカ福音ルーテル教会のキャロル・サック宣教師を中心に「リラ・プレカリア（祈りのたて琴）研修講座」を運営してきました。リラ・プレカリアは、病床にある方や心身に痛みを持つ方にハーブと歌による祈りをお届けする活動で、6期に及ぶ研修講座からは38名の修了生が奉仕者として巣立っていきました。現在も多くの修了生が国内外の医療施設や老人ホーム、ホスピスなどで活動を続けています。

2月10～12日の3日間、研修講座の終了から6年ぶりに、修了生と講師、関係者が集う催し、「リラ・プレカリア同窓会 リフレッシュ・ワークショップ2024（同実行委員会主催）」が開かれました。この催しは、修了生が後進のトレーニングに当たれるようになることを目的として、再度その理念やスキルを学ぶために計画されました。

ワークショップの会場となったJELA ミッションセンター・ホールには、3日間で研修講座修了生を中心に延70名が集い、歌やハーブのレッスンの実技の復習、リラ・プレカリアの理念の確認を行いました。

本紙では、リフレッシュ・ワークショップ2024に参加した修了生や講師からの感想をご紹介します。

「社会の諸場面で輝き続ける予感」

中山康子先生

2006年に開始したリラ・プレカリア研修講座でしたが、その前の2年間の準備期間を含めると2024年は、図らずも丁度20年目の節目にあたる時期でした。6期生までの全期生が一堂に会して対面で会うことができたのは、2018年に研修講座終了後初めてのことでした。参加者の中には、オーストラリアから、北海道から、奈良から、と泊りがけで参加された方々も大勢いらっしゃいました。

キャロルさんが準備した3日間のプログラムを通して、研修講座の学びを振り返り、修了生の現状、今後への継承を目の当たりにする機会になりました。

寝食を忘れるかのような準備委員の働きに、主が報いて下さり、その準備作業をはるかに超えた聖霊の働きを期間中の多くの場面で感じることもありました。

開会礼拝の時に皆さんから簡単な現状報告を聞きながら、研修講座を行っていたJELAホールで今回の催しが開催できたことに感謝しました。ある修了生の「天国とは今日のような場所かと思わさ

れる」との感想を聞いて、私は、天国に咲き輝く花々のようにお一人おひとりを見る思いでした。

小さい群れではありますが、最近の社会情勢・国内外の世界状況を思うにつけ、一人で何もできないどうしようもない鬱々とした思いがする日々です。リラ・プレカリアの働きは修了生が必ずしも病床にある方への個別訪問という本来の働きに関わってなくても、それぞれの立場で活動している様子をうかがっては、まるで闇夜の一点・大海の一滴のように感じることができました。この一点・一滴が社会の諸場面で輝き続ける予感すら得ました。

外観は、それなりに加齢を感じますが、主の働きは中断なく人の思いを超えて、必要なところに働いていることを今後も信じたいと思いました。

なお、今回は諸事情で欠席された修了生から、「出たかった」「資料を送ってほしい」などの要望も寄せられ、この学びが、会えなかった修了生のそれぞれの生活に今も生きていることを思って、感謝しています。

【本文に出てくる用語について】

- ・「信頼のサークル」……互いを尊重し信頼しあう人間関係を築くための11の約束ごと。話し合いの際に用いる。
- ・「ヘセド」……日本語の聖書では「恵み」「慈しみ」と訳されているヘブライ語。キャロル宣教師のミニストリーの源泉。
- ・「PHF（パストラル・ハーブ・フォーメーション）」……キャロル宣教師の講義をもとに、リラ・プレカリアの重要なトピックについて自分なりに展開した講義を作成する訓練のこと。

「一歩踏み出す勇気」

早野潤子さん

ずっとお会いできていなかった方々に4年以上ぶりに、リアルにお会いできて感無量でした。いろいろな方々の思いや流れがあわさって実現したこのたびの集い。神様の御旨に導かれて、また、それぞれの賜物と置かれた場所で、蒔かれた種が育っていている様子を、たくさんの分かち合いの時間で知ることができ、期を越えていろいろな方の声を聴くことのできた、豊かな3日間でした。

奈良と関東を往復夜行バスで通った、あのものすごく密度の高い2年間の研修の、苦楽を共に支え合った同期の仲間の心の絆にもあらためて感謝でした。

皆さまの素晴らしい賜物で（声やハーブの調べだけでなく深い思いや洞察や体験や沈黙、そしてたくさんの笑顔と、そしてまた遠く離れたところからも祈りを分かち合ってください）本当に美しく豊かな時空が創られていく中に身を置くことができました。

修了生一人ひとりの連なり、ゆるやかな繋がりが、皆さんのHOMEのような「場」として生かされますようにと祈ります。「信頼のサークル」のように、互いを尊重しつつ、みなそれぞれの人生の道のりを旅しながら、それぞれ変化しながらも、パストラルハーブに導かれて歩みはじめた場所、そして、最終的に、神様のもとに帰る場所は一緒だと、再確認するような、時間になりました。

そして、また自分の置かれた場所に立ち戻り、これからの一歩を踏み出す勇気もいただきました。

「再生のとき」

小野崎良子さん

再生のとき「リラ・プレカリア同窓会リフレッシュ・ワークショップ」この長いタイトルの中心を「リフレッシュ Refresher」に見つけました。あらためて、準備された資料とキャロルさんをはじめとする参加者の講義、近況、証しなどを振り返りながら、静かに息を吹き返していく自分を感じます。

この3日間はギュッと固められた「スープの素」をいただいた感じです。家に戻って日常という「湯」を注ぐと美味しいスープになります。スープの素だけでも、お湯だけでもスープはできません。滋養ある優しいスープを飲みながらまた日々を過ごしたいと思います。この機会を与えてくださったすべてに感謝いたします。ありがとうございます。

「新しく出発する喜び」

豊永泰子さん

コロナで思うように動けなかった時間が、みんなの会いたい！会わねば！！という気持ちを発酵させたのかなと思うような3日間でした。手厚い準備とおもてなしをありがとうございます。

またここから新しく出発する喜びに満ちた3日間でした。

「一人ひとりの心が一つに」

石川優子さん

本当に祝福された3日間でした。オーストラリアはゴールドコーストから、そして日本各地から集まり、共に学びをした者同士が同じ空間で今回の学びを共有できたことを素晴らしい体験としてここに刻む事が出来ました。

この開催にあたり、準備に関わってくださった全ての方に心より感謝申し上げます。

そして、今回のイベントを通して、一人ひとりの心が一つになり、さらなる神様の大きなご計画と可能性を感じました。

私は1期生を卒業して、その後オーストラリアに移住したので、皆さんとの物理的距離感や、心の孤独感をとても感じていました。しかし今回の集まりで皆さんをとても近くに感じ、一体感を感じたことで、今まで感じていた孤独感がなくなりました。研修中、共に、ハーブを弾き合い、その人から出る神様の愛の音に触れる貴重な体験もできたことは感謝です。ありがとうございます。

また、何年かを機に、このようなイベントが開催されることを期待します。ありがとうございました。

「再会は神様からのおくりもの」

弓削萬里さん

2月10日からの学びに参加できた事に心から感謝いたします。PHF（パストラル・ハーブ・フォーメーション）というメンバー9人が、これから新しい形でのリーダーとなると思います。これはキャロルさんが蒔いた種でもあります。一つ一つの学びが大きくなる日が間近に迫り、多くの方の努力が実を結んでいると身をもって感じています。私も修了生として衣笠ホスピスで奉仕していますが、根本的な部分は社会奉仕です。病院の職員として、リラ・プレカリア（パストラルハーブ）の働きができたかと思いますが、3日間の学びと久しぶりにお会いしたハーブの神藤雅子先生との再会は神様からのおくりものです。ありがとうございました。

匿名希望

ゲストとしてお招きいただき、心から感謝いたします。3日間のうち、1日目と3日目の午後に参加させていただきましたが、久しぶりに足を運んだにもかかわらず、招かれ、喜ばれ、受け入れていただいている雰囲気広がっており、心温まる思いと、神の御国を想起させる恵のときを頂きました。

途中で学びを終えてしまった立場にあっても居場所がないと感じさせない、プログラムの内容と空間に神の愛と、それを受け継いだ人たちの集まりゆえになせる業なのではないかと感じました。

このプログラムは、単に学びにとどまらず参加者の人生と変革させる神の力が働く内容であったと深く感じます。同時に場を提供してこの学びをサポートされたJELAの皆様の献身的な働きがあったゆえだと思えます。皆様と、主に感謝します。

「ヘセドの愛」

遠藤邦子さん

皆様、神様が共におられ、素のままに居られる素晴らしいギフトの3日間、ありがとうございます。身体も心も魂も満たされた日々でした。講義、修了生の発表などの学びから原点に帰ることができました。優しいハーブの音色に送り出され一歩一歩、歩き始めています。

沢山学んだ中から心にとまったこと3つだけ、箇条書きにします。①ヘセドは、決してあきらめない愛、②ヘセドは安定して感情より強い愛、③ヘセドは愛する事をやめない愛。

そのヘセドの神様が私と共にいる！

「仲間が繋がりが合う事の力と恵み」

今野七重さん

素晴らしい3日間でした。神様の「ヘセド」を直に体験しました。こんなに恵みをいただいている！愛されている！一人じゃない！と。

同じ学びをいただいた仲間が繋がりが合う事の力と恵みを感じ、心新たに再スタートを切れました。これからオンラインで定期的に繋がる事、また数年に一度は同窓会として集まりたいと願います。

JELAさん、先生方、実行委員さん、そして神様に感謝します！！

匿名希望

「改めて初心に戻る」ことの大切さを感じました。奉仕も長くなると気も緩みマンネリになりがち。とても良い刺激となり、再びエネルギーを頂きました。

準備等、お世話してくださった方にお礼を申し上げます。キャロル先生のあたたかい心をいただきました。どうもありがとうございました。

「心の『トゲ』がたくさん消えた」

宮崎久美子さん

大変恵まれました！ありがとうございます。特に「ヘセド」の講義は新鮮でとても大きな気づきが与えられました。

「ヘセド」の神様から大きな愛を改めて受けたそんな感じで、自分の心の「トゲ」がたくさん消えたような気持ちです。

他者に接するにも「ヘセド」の心で向かえそうです。でもまた「トゲ」が生えてきそうで近いうちにこの様な講義を受けたいと思います。ぜひ次の企画をお願いします。

「新生パストラルハーブの息吹き」

綱 春子さん

修了生が集い、パストラルハーブの意味や活動等について学び直しができました。また、親交を温め合い、励まされた豊かな時をありがとうございます。

このワークショップは、新生パストラルハーブの息吹きを感じました。この働きがずっと続きますように！

「難民奨学生のつどい2024」 6名の新奨学生にエール!

JELAは、難民支援事業の一環として、難民や難民認定申請中の方々に給付型（返済不要）の奨学金を提供しています。JELAが支援する難民奨学生の皆さんに横のつながりをもって頂きたいと考え、3月2日にJELAミッションセンター・ホールで「難民奨学生のつどい」を開催しました。

催しには、今年4月から学業を始める方々を含む16名の奨学生のほか、JELAと難民支援で協力してくださっている政府機関や団体・組織



の方々もご出席くださいました。

新奨学生となる6名には、古屋四朗理事長から「奨学生認定証」が授与され、40名あまりの来場者から祝福の拍手が送られました。

授与式の後は、懇親会で食事を共にし、親睦を深めました。奨学金受給者で3月に卒業する方の中から他の規範となる方を表彰する「最優秀奨学生賞」には、「フィロクセニア」と「RVEP」の各奨学金から1名が選ばれ、懇親会の中で表彰と記念品の授与が行われました。

会場では奨学生がお互いに学業の悩みなどを共有しつつ励まし合い、支援者の方々からは奨学生たちにエールが送られていました。

難民支援奨学金「RVEP」「フィロクセニア奨学金」 2025年度の募集を4月より開始します!

JELAの難民支援事業は、シェルター（JELAハウス）提供と給付型（返済不要）奨学金の2本が大きな柱となっています。難民のための奨学金には次の2種類があります。

・ **難民専門学校教育プログラム（RVEP）**：UNHCR駐日事務所、公益財団法人ウェスレー財団との共同運営のもと、認定難民の専門学校進学を支援。

・ **JELAフィロクセニア奨学金**：難民認定申請中の方々も応募可能なJELA独自の奨学金。専門学校から大学院まで幅広く支援。

2025年度奨学生の募集開始をご案内いたします。

◆ RVEP概要

【対象】難民

※難民認定申請中の方は対象外

【支援内容】専門学校への進学支援

※年間上限 120万円

(JELA およびウェスレー財団がRVEP 奨学金として負担)

【支援期間】修業年限

【募集スケジュール】

- ・ 4月1日(月)…募集開始
- ・ 8月31日(土)…応募締切 (必着)
- ・ 9月中～下旬…書類選考
- ・ 10月上旬…面接選考
- ・ 10月中旬…採否通知

◆ JELAフィロクセニア奨学金概要

【対象】難民・難民認定申請者、その家族

【支援内容】高等教育機関への進学支援

※年間上限 120万円

【支援期間】修業年限

【募集スケジュール】

- ・ 4月1日(月)…募集開始
- ・ 9月30日(月)…応募締切 (必着)
- ・ 11月…書類・面接選考
- ・ 12月上旬…採否通知



詳しくはJELA公式ウェブサイトをご覧ください。
皆様のご応募をお待ちしております。



2024年もカンボジアの無電化地域のために ソーラーランタン570台をご寄付いただきました!

パナソニック ホールディングス株式会社様のご支援により、JELAはインドとカンボジアの無電化地域にソーラーランタンを届ける活動を行っています。2024年は、JELAのカンボジア支援のために570台のソーラーランタンをご寄付いただくことになりました。

ソーラーランタンは、2月15日に神戸港からカンボジアへ向けて出荷され、4月中旬にJELAのカンボジア・パートナーLife with Dignity (=LWD、意味「尊厳ある生活」)を通じて、無電化農村地域の村人に届



けられます。

カンボジアの都市部は目覚ましい発展を遂げていますが、農村は無電化地域もあり、ソーラーランタンのような太陽光を使って充電ができて繰り返し使える製品は、大変重要な

生活支援物資となります。ソーラーランタンがあることで、夜間の経済活動や子ども達が日没後に勉強することも可能になり、中長期的に人々の生活レベルが大きく向上します。

JELAでは6か月、1年、3年の期間で定期的にソーラーランタンが生活向上にどのように役立っているかを調査し、パナソニック ホールディングス様と調査結果を共有します。支援地域の子どものための教育環境、生活環境のためにより効果的な支援内容を検討し、継続して支援に取り組んでまいります。

JELAホールでクリスマス・チャリティコンサートを開催 会場には70人超の方々が来場

JELAは、昨年9月から12月まで、国内5会場で「第20回世界の子ども支援チャリティコンサート」を開催しました。12月16日(土)には、JELAのオフィスがある東京・恵比寿のJELAミッションセンターホールでクリスマス・コンサートを開催し、会場には70人超の方々が来場してくださいました。

コンサートの奏者は、西暦2000年に『メサイヤ（ヘンデル）』コンサートを歌うために誕生したグレイス合唱団と韓国出身のゴスペルシンガー、サムエル・カンさんです。グレイス合唱団は、ジョン・ラターの「永遠の花」「このうるわしき大地に」や定番のクリスマスナンバーを披露。その後、合唱団はサムエルさんのオリジナル・ワーシップソング（ポップ風の賛美歌）にコーラスとして加わりました。



サムエルさんの力強いボーカルが会場を熱気で包み込み、曲の合間には聖書のメッセージが大胆に語られました。

コンサート後には、アメリカ直輸入の手作りキルト（作者ナンシー・ベケダムさん）のチャリティ・オークションが開かれ、落札総額を合わせ「第20回世界の子ども支援チャリティコンサート」寄付総額は、100,900円となりました。

JELAではチャリティでご寄付いただいた全額を、世界の子ども支援事業

の支援金としてカンボジアのプレスクール建設、インドの幼児教育費に用いさせていただきます。

「第20回世界の子ども支援チャリティコンサート」は、以下の団体からご協賛をいただきました。

- ・ 三井不動産リアルティ株式会社
- ・ 野村證券株式会社
- ・ 有限会社小川装建
- ・ 西村建築設計事務所
- ・ 株式会社トムス
- ・ シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社
- ・ はこぶね便事務局

このチャリティコンサートのために演奏して下さった皆様、ご協賛くださいました皆様、そしてご来場くださり献金をお捧げくださった皆様に心より感謝申し上げます。

2025年度 学校教育助成金 募集開始

JELAは、学校教育助成事業を通じてJELAのミッションである「キリストの愛をもって、助けを必要とする人びとに仕える」にふさわしい、公益に資する人材の育成プログラムを支援しています。

これまでに、大阪キリスト教短期大学（プノンペン無償保育園の新設・持続可能な運営のための基盤整備）、九州ルーテル学院大学（障害学生を応援する学生の活動【サポーターSHIP-S】）、松蔭高等学校（環境問題の啓発活動【Blue Earth Project】）などが助成対象として選ばれています。

2025年度の助成金の募集を開始しますので、ご応募いただければ幸いです。

<助成金の概要>

- 1) 給付金額：上限年額100万円
- 2) 給付対象：2025年4月1日から2026年3月31日に実施するプロジェクト（*実施前の指導者研修等のプロジェクト立上げ準備を含みます。）
- 3) 給付期間：プロジェクトの内容に応じて最長で3年間。ただし、実施状況が思わしくない場合は途中で助成を打ち切ることがあります。

- 4) 給付方法：当財団から学校へ直接支払います。
- 5) 給付時期：プロジェクト開始直後（*2年目以降は前年度報告書提出後に審査有り。）
- 6) 応募締切：2024年11月30日(土) 必着

詳しくはJELAのウェブサイトをご覧ください



アメリカワークキャンプ

2024.7.19(金)~7.30(火)

申込締切間近!!

4月末日必着

詳細はこちら→



2023年度も

ご支援ありがとうございました!

いつもJELAの公益事業をおぼえ、尊いお祈りとご寄付を頂き誠にありがとうございます。皆様から2023年度に頂きました寄付金についてご報告申し上げます。

| | |
|---|---|
|  世界の子ども支援 643万9424円 |  奉仕者育成 4万円 |
|  難民支援 118万9500円 |  緊急災害支援 61万円 |
| 一般支援金・サポーター寄付金 174万5638円 | 合計 1002万4562円 |

2023年度、JELAは皆様からのご寄付に弊財団からの支出を加え、以下の事業を支援・運営いたしました。

- ・ コルカタ貧困地域の女児救済支援 (インド)
- ・ 学校建築支援 (カンボジア)
- ・ パナソニック ホールディングス株式会社と協働しソーラーランタン送付 (カンボジア)
- ・ チャリティコンサート運営 (日本・5か所 [佐賀、愛知、東京])
- ・ 次世代リーダー育成のための給付型奨学金支給 (日本)
- ・ 難民対象奨学金支給 (日本)
- ・ 難民シェルター運営 (日本・都内2か所)
- ・ ワークキャンプ運営 (カンボジア、日本)
- ・ オンラインスタディツアー運営 (インド)
- ・ 学校教育助成 (日本)
- ・ ウクライナ避難民支援 (ウクライナ・イタリア)
- ・ 地震被災者支援 (トルコ・シリア、モロッコ)
- ・ マウイ島山火事災害緊急支援 (アメリカ)

※2023年度に頂きましたご寄付のうち、46,785円は来年度へ繰越となります。2024年以降実施する事業において大切に用いさせていただきます。

JELA事業内容をより充実させ、継続的な支援を可能にするために、2024年も皆様にお祈り・ご寄付によるご支援をよろしくお願いいたします。

支援者一覧

(2023年11月1日~2024年2月29日)

(順不同・敬称略)

浅野圭佑/渥美千鶴子/阿部光成/尼嶋治/安藤淑子/池田哲也/石田宏美/石森寿幸・京子/井上新/井上秀樹/岩越優子/太田立男・泰子/大塚真佐子/小川副代/柿沢純江/勝部久子/北川勝弘/キャロル・サック/京谷信代/グレイ恵子/河野悦子/小坂敦子/小林勝/小宮俊作/佐藤裕美香/清水恵満子/霜尾閑子/宗美江/白根淳一郎/新角房子/深川育子/鈴木春江/高良研一/武井順太郎/竹淵三和子/立山久美子/田中栄子/田中美紗子/谷口美樹/千葉ちづ子/辻裕子/鳥居香代/永島かな子/中野重夫/中山康子/西垣親子/西野みゆき/野上きよみ/野口久志/野田千恵子/芳賀美江/蓮香隆夫/平岡博・いづみ/深澤理香/藤井禮子/古川文江/古屋四朗/保坂和子/星野幸子/松岡俊一郎/右谷亮次・孝子/光延和賀子/南節子/三宅洗子/森田哲史/八坂由貴子/安田やまと/安みぎわ/山口敏子/山之内正俊/浦和ルーテル学院/恵比寿聖書フォーラム/キリスト教出版販売協会/九州学院みどり幼稚園/グレイ合唱団/聖書フォーラム委員会/東京羽田キリスト教会/東洋英和女学院中高部宗教委員会/NASIC/新津福音キリスト教会/認定こども園玉名ルーテル幼稚園/hi-b.a.高校生聖書伝道協会/ハーベスト・タム・ミニストリーズ/ひばりが丘グレイ教会/ルーテル学院幼稚園/ルーナツ/社会福祉法人ベニヤホーム/JELC大岡山教会学校/JELC大分教会/JELC蒲田教会婦人会/JELC神水教会/JELC神水教会学校/JELC玉名教会/JELC天王寺教会学校

ご支援ありがとうございます。
匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせください。

編集後記

ドイツの音楽家のJ.S.バッハが残した自筆譜のいくつかに、楽譜の最後に「SDG」という書込みがあります。この「SDG (Soli Deo Gloria) は「神にのみ栄光あれ」という意味のラテン語ですが、全ての手のわざを神の栄光のために捧げ活動していく、という音楽家バッハの信仰が凝縮された三文字であるように思います。昨今は国連のSDGsの方が有名かも知れませんが、バッハの元祖SDGは、公益認定を受けたJELAが、今後より一層広い世界へと、キリスト教界の垣根を越えて助けを必要とする人々に届く支援を行っていく上で、最も心に留めるべき「JELA的SDG」だと思います。どうかJELAのためにお祈りください。皆様のお祈りとご支援、神様への感謝を公益法人への転身の原動力として参ります。これからもよろしく願い申し上げます。(渡辺薫)



JELAは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

SDGsは、2015年に国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

JELAを
継続的に支える
JELAサポーター
を求めています!

年1,000円から! クレジットカードによる自動定期寄付プログラムです。



詳しくは で検索



〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26
☎ 03-3447-1521 📠 03-3447-1523
🌐 www.jela.or.jp ✉ jela@jela.or.jp

寄付金のご送金先: (振込先口座名は旧法人名もご使用いただけます)
ゆうちょ銀行 口座番号: 00140-0-669206 (加入者名: 一般財団法人JELA)
三井住友銀行 飯田橋支店 普通2896506 (口座名義: イッパングァン・カンボジア)